

平成 29 年度 大阪市英語力調査（「英検 IBA」）の結果の概要と今後の取組について 大阪市教育委員会

■ 調査内容

学年	英検級レベル	テスト内容		満点スコア
		筆記問題	リスニング問題	
3年	英検 2 級～5 級レベル	35 題	30 題	1100 点
2年	英検準 2 級～5 級レベル	35 題	30 題	1000 点
1年	英検 3 級～5 級レベル	35 題	25 題	800 点

■ 調査結果

【「語い・熟語・文法」「読解」「リスニング」の値は大阪市の分野別平均正答率(%)】

3年	平均スコア(点/1100点)	語い・熟語・文法	読 解	リスニング	英検 3 級レベル以上の割合 (%)
	757.8 点	62.1%	55.5%	54.4%	52.2%
2年	平均スコア(点/1000点)	語い・熟語・文法	読 解	リスニング	英検 4 級レベル以上の割合 (%)
	679.5 点	68.5%	56.6%	63.1%	67.9%
1年	平均スコア(点/800点)	語い・熟語・文法	読 解	リスニング	英検 5 級レベル以上の割合 (%)
	519.8 点	57.1%	51.1%	65.3%	82.6%

■ 結果の概要と今後の取組について

学年	結果の概要と今後の取組について
3年	<ul style="list-style-type: none"> 英検 3 級レベル以上の割合が 50%を超え、平成 29 年 3 月に改訂された大阪市教育振興基本計画に示す目標とともに、国の第 2 期教育振興基本計画に示す目標「中学校卒業段階：英検 3 級程度以上を達成した割合 50%」を達成した。 「語い・熟語・文法」「読解」「リスニング」の 3 分野すべてにおいて、平均正答率が 50%を上回った。「読解」「リスニング」の 2 分野の平均正答率をさらに上昇させるために、今後は C-NET と効果的なチームティーチングや教員の授業内における英語使用をさらに増やし、リスニング力を向上させ、日々の授業の中で 100 語以上のまとまった量の英語を読む取組を拡充していく必要がある。
2年	<ul style="list-style-type: none"> 英検 4 級レベル以上の割合が 60%を超えた。 「語い・熟語・文法」「リスニング」の 2 分野において平均正答率が 60%を超えた。「読解」の正答率は 50%を超えているものの、「語い・熟語・文法」、「リスニング」と比較すると、読解力向上にむけて今後取り組む必要がある。読解力向上にむけて、昨年度全中学校に配付した読解力向上のための補助教材を活用する等、教科書本文以外の 50 語以上程度のまとまった量の英文を読ませる取組を、日々の授業の中で継続的に展開する必要がある。
1年	<ul style="list-style-type: none"> 英検 5 級レベル以上の割合が 80%を超えた。 「リスニング」の正答率が 60%を超えた。昨年度より順次開始した短時間学習を活用した「小学校低学年からの英語教育」による成果、また中学校教員や C-NET が授業内で英語使用の機会を多く確保した成果が伺える。 調査の実施時期が 10 月下旬から 11 月上旬であり、1 年の生徒にとって、ある程度まとまった量の英文を読むことに慣れていない時期であったが、「読解」の平均正答率は 50%を超えた。1 年の読解力をさらに高めるためには、基本的な語いを増やすことが重要である。今後は日々の授業の中で、チャンツや歌、絵本を活用した短時間の繰り返し学習の定着をさらに図り、単語の音・文字・意味をより多くインプットする必要がある。